

読み書き型バイリンガル 聞く○ 話す○ 読む○ 書く○ 会話型バイリンガル 聞く○ 話す○ 聴解型バイリンガル 聞く○	バイリテラル 会話はできる 聞いて理解はできる	モノカルチュラル バイリンガルであっても文化的に1つに留まる状態 バイカルチュラル 価値観や行動が両方の文化を理解している状態 デカルチュラル 文化的な側面において、どちらの文化にも帰属意識が無い ※境界化/周辺化：ベリーの文化変容モデル
均衡バイリンガル 2言語とも十分発達 バランス・バイリンガル 敷居仮説 認知力への影響は 3階 プラス	付加的バイリンガリズム 第一言語の捉え方で、第二言語に触れて 加算的バイリンガリズム 母語に新たな価値を見出す状況。 ※統合：ベリーの文化変容モデル	削減的バイリンガリズム 第一言語の捉え方で、第二言語に触れて 減算的バイリンガリズム 母語や母文化が失われる状況。 同化：自文化を捨てて、他文化に溶け込む 周辺化：自文化にも他文化にも帰属意識が無い
偏重バイリンガル 1言語は十分に発達 ドミナント・バイリンガル 敷居仮説 認知力への影響は 2階 変わらない		
限定的バイリンガル 2言語とも発達不十分 ダブル・リミテッド・バイリンガル 敷居仮説 認知力への影響は 1階 マイナス 弊害		
カミンズ： 敷居理論/敷居仮説： バイリンガリズムと認知との関係をまとめた。 発達相互依存仮説： 第一言語に伴う認知力が発達していると、第二言語は発達しやすいという仮説。 共有基底言語能力モデル：氷山説 学習言語能力など基底部分は共有しているという理論。 CUP Common Underlying Proficiency 分離基底言語能力モデル：風船説 1つの言語が膨らむと、もう1つは小さくなるという理論。 SUP Separate Underlying Proficiency ※第二言語習得にバイリンガルをネガティブに捉えていた。		
生活言語能力 生活場面で必要とされる能力。 BICS：ビックス 場面依存度が高く認知力必要度は低い。2年ほどで習得。 学習言語能力 教科学習で必要とされる能力。抽象的思考分析力が必要。 CALP：カルプ 場面依存度は低く認知力必要度は高い。5-7年で習得。		機能的バイリンガリズム： 目的と場所によって使い分ける ① 会話的 コードスイッチング 初めの挨拶、引用など ② 状況的 コードスイッチング 外的要因での言語切り替え。家庭日本語/学校英語 英語を理解しない友人が来たら日本語で話す。 ③ 隠喩的 コードスイッチング 相手の親密度を高める。親の前の兄弟での秘密会話
達成型 バイリンガル 大人になってから2言語使用を始める人 獲得型 バイリンガル 子ども時期から2言語を身につけている人 同時 バイリンガル：ほぼ同時期に2言語に触れて習得する人 父親が日本語、母親が外国語などの環境で育つ。 連続 バイリンガル：1つの言語習得が進んでから2つ目の言語を習得(継続) 家庭では英語、学校は日本語などの環境で育つ		スピーチレベル=レジスタ (個人の言語使用域)：話し方の丁寧さのレベル ダイグロシア： 1つの社会で2つの言語が使用されている。：ファーガソン提唱 H変種 威信の高い言語：精密コード：政治等フォーマルな場面で使用 L変種 威信の低い言語：限定コード：家族とのインフォーマルな場面で使用 スイス [標準ドイツ語/スイスドイツ語] ハイチ[フランス語/ハイチクレオール]
		レネバーグの臨界期仮説： 思春期を過ぎると第二言語習得が困難になる。 臨界期=クリティカルピリオド 沈黙期：サイレントピリオド：発話前の無言期間 複数臨界期説：発音や文法など言語領域によって、臨界期が異なるとする説
		移行型 バイリンガル教育 少数派を多数派に同化させる教育 サブマージョンプログラム 少数派の子供を多数派言語の中で教育 維持型(継承語)バイリンガル教育 少数派言語能力を伸ばし、権利を保護する イマージョンプログラム 多数派を少数派言語に入れて教育する 早期イマージョン5-6 中期 9-10 後期 11-14 / 全面的・部分的イマージョンがある